



## 看板事業

- ・無人浜での過ごし方を各自に決めさせ、主体的に行動することの楽しさとそれに伴う責任について、活動を通して学べるようにした。
- ・スノーケリングや釣りだけでなく、スケッチや観察など、様々な子の興味関心に応じて幅広い活動内容に対応できるよう準備した。

### ◆安全管理のポイント

- ・活動してよい範囲を決めたり、海に入る時はジャケットの着用を義務付けたり、安全に活動するためのルールを決め、それがどれだけ大切かを常に理解させるよう活動を進めた。
- ・子どもたちの監視は、浜から・海上から・海中からと、その活動の様子が常に把握できるような体制で行った。
- ・疲れた時は休むということも活動の選択肢に入れ、子どもたちが各自の体調や天候・海の状態に合わせて、活動できるよう配慮した。

## 3 アンケート結果

### (1) アンケート

質問内容	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか。	88%	12%	0%	0%
この事業の活動内容はどうか。	71%	24%	5%	0%
事業全体の進め方はどうか。	71%	24%	5%	0%
自然の家のスタッフはどうか。	76%	24%	0%	0%
ボランティアのみなさんはどうか。	76%	19%	5%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

### (2) 参加者の声（事後アンケートより）

- ・自然は楽しい。
- ・もっといろいろな活動をしたかった。
- ・泳がない釣りがしたかった。
- ・全体的に楽しかった。
- ・ボランティアやスタッフが優しくしてくれた。
- ・矢代湾はきれい。楽しいものがいっぱいある。
- ・自然に合わせて行動することの大切さや、自然と共に生きることの楽しさを感じることができた。
- ・仲間と協力することの大切さを学んだ。
- ・仲間と一緒にいた方が楽しくなる。仲間って大切。
- ・友だちが増えて、いい経験になった。
- ・自分のためによかった。
- ・すごく楽しかった。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- 自然に直接触れ合う時間がたくさん確保できた。子どもたちの多くが、スノーケリングで海中を観察したり、釣りをしたりする活動に取り組み、自然との関わり方も各自のペースで進めることができた。
- 数多くの選択肢を用意し、自らの状態や天候・海の状態を的確に判断し、活動を選択することができた。海に慣れていくにしたがって、遊びのバリエーションが増え、活動を通して仲間とのつながりが深くなっていく様子が見られた。
- 天候や海の状態に合わせて臨機応変に動ける内容だったため、台風5号の影響にも柔軟に対応することができた。（無人浜への出発を2日間遅らせた）
- 2週間前の事前説明会では、子どもたちの実態把握をしたり、保護者の方にこの事業のねらいや、概要を知っていただいたりする機会を設けることができ、お互いに7泊8日の見通しをもつことができた。

(2) 課題

● 予定どおり月曜日（3日目）に無人浜へ出発することができなかったが、大浜での活動を通して、無人浜での過ごし方のイメージを膨らませることができた。実際にこの段階で得た技能、例えばスノーケリングをしながら釣りをすることなど、無人浜へ行っても熱心に取り組む姿が見られた。スタッフ側としては、監視体制のイメージをもつことができた。もしも予定通り無人浜へ出発していたら、今回のようにスムーズに活動が進められたかどうか不明である。

→平成30年度は、以下のようなスケジュールを予定している。

H30 海の自然学校 ～矢代湾で生きる～

活動内容	4日(土)		5日(日)		6日(月)			7日(火)			8日(水)			9日(木)			10日(金)			11日(土)		
	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後
活動内容	開校式	アイスブレイク	野外炊飯	海での活動（SK・SNKの基礎）	ロープワーク	海での活動（大瀬氏によるレクチャー）	海での活動（大瀬氏によるレクチャー）	プレイHで疑似テント泊	<b>矢代湾を旅する3泊4日</b> カヤックで移動・スノーケリング・釣り 野外炊飯・無人浜でのテント泊 など						お別れ会、あと片付け	キャンプファイヤー	ふりかえり	閉校式				

● 子どもたちに身に付けさせたい力がこの8日間を通してどの程度高まったか、それを調査する手段や時期などを追究していくべきである。保護者の思いや家庭での様子も含めて調査の対象とし、海の自然学校の教育的効果についてまとめていくことが必要である。若狭湾の看板事業として、他の事業にも活かせる要素を明確にしていきたい。

→そのためにも、①事前説明会→②海の自然学校→③海の自然学校同窓会と、この3つの流れ・つながりをどう作るかがポイントだと考えている。具体的な方法については検討中である。





看板事業





